

年頭のご挨拶の前に、1月1日に発生しました「能登半島地震」において犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表すとともに、被災された多くの皆さま方に対しお見舞いを申し上げます。また、一日も早く復旧・復興がなされますことを、心よりお祈り申し上げます。

あらためまして、皆さま、あけましておめでとうございます。

2024年の年頭にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

皆さまにおかれましては、新しい年を迎えられて、決意を新たにされていることと思います。

また、年末年始を含め、患者様への献身的なケアや支援に、ご尽力いただいている、附属病院の職員の方々に、感謝を申し上げます。

さらに今回の地震における災害派遣医療チーム DMAT として、1月2日に5名、本日6名の医師・看護師など、医療従事者の皆さまが現地に出向かれております。心より敬意を表します。

さて、感染拡大が続いていた新型コロナウイルスは、昨年5月より感染症法上の位置づけが5類に変更されたことで、社会活動が回復しつつあります。本学においても対面での授業が全面的に再開し、キャンパスに学生の賑やかな声が戻ってまいりました。昨年は、役員、教職員の皆さまとともに、多くの国内出張に加え、海外の提携大学を訪問することもできました。

また本学にも文部科学省、国内国外の大学、企業を含めた関連機関の多数の皆さまに、ご訪問をいただき、対面でお話することができ、本学の将来に向け多くの学びを得ることができましたことを、大変ありがたく思っております。

コロナ禍では多くの制限がありましたが、その一方、Zoom や Teams などのツールを活用したオンライン授業や会議が積極的に行われ、新しい教育・研究の場が確立されました。皆さまには、単にコロナ禍以前に戻るのではなく、新しい技術を受け入れつつ、対面・オンラインそれぞれの利点を上手に組み合わせて、時代に応じた大学運営、教育・研究のあり方を意識して、日々の業務にあたってほしいと考えております。

私は、4月の学長就任の折、「教育改革の推進」をビジョンのひとつとして挙げました。学生の選抜拡大に向けた他大学との教育連携の強化、内部質保証の実質化、グローバル化に向けた施策などを推進しているところであります。

その一環として、昨年、学生に対して「ChatGPT 等の AI 対話サービスの利用について」の学長メッセージを発信し、新しい技術を拒絶することなく、適切に利用して学びを深めてほしいと伝えました。その一方で、利用することでどのような問題が起きるかということを、学生にしっかりと学んでもらうことも、とても重要だと思っております。

このように、私たち教職員が一丸となって、学生が自ら考え、行動できるように成長を促し、愛

情をもってサポートする体制を今年も引き続き構築してまいります。

研究面においては、クリーンエネルギー、先端脳科学、発生工学、ワインといった本学の強みである研究や学部を超えた融合研究の推進はもとより、新たな強みの分野の開拓をさらに進め、研究支援体制を一層強化していきます。このような、全学的な教育力、研究力の底上げに向け、制度面の整備や研究時間の確保に向けた対策などにも、これまで以上に、力を注いでまいります。

私は、こうした教育と研究を推進・強化していくためには、教員と職員との連携・協働がとても重要であると考えています。

教員と職員の枠組みを超え、さらには学生とも一緒になって、思考し、実践していくこと、まさに「教職学協働」を推進して、未来に向けた山梨大学の改革にまい進していくことこそ、重要であると考えております。

私たち一人ひとりの力を結集し、一人ひとりが改革の意志をしっかりと持って、行動していくことを、今年も自信をもって進めてまいります。

皆さまのご協力をお願いいたします。

去年は医学部附属病院が、開院 40 周年を迎えました。

「すべての患者さんに安心を」という理念のもと、地域の皆さまの健康を守ることに全力を尽くし、その歴史の中で、最先端の医療研究をベースに、先駆的な治療を確立し、地域医療に多大な貢献してきました。

また今年も、工学部が創設 100 周年を迎え、さまざまな記念事業を実施します。そして、多様化する新たな社会に貢献できる工学系人材を育成するために大幅な学部改組を行います。

工学部は、7 学科から 1 学科複数コースへの再編、クリーンエネルギー化学コースの新設、入学後に専門分野を決めることのできる総合工学枠の導入など、まさに特色ある、新しい工学部へと生まれ変わります。

さて、世界に目を向けてみますと、ウクライナやパレスチナなど、世界各地で侵攻や紛争が続いており、その状況に心を痛めると同時に、平和の重要性を改めて認識しています。

一方、国内では急激な少子高齢化と人口減少、地球温暖化に伴う気候変動、賃金水準の停滞などといった、多くの課題が山積しています。

このような時代であるからこそ、私たちが追及していかなければならないことは、新たな価値の創造であります。

私は、この 2024 年を、山梨大学を「創造」する年にしていきたいと考えます。すなわち現代

的な課題を的確に捉え、多角的に分析し、将来を確実に予想しながら、勇気をもって改革を進めていくという、クリエイティブな大学運営を進めていきます。

そしてこのような「創造的な大学運営」のためには、広い意味での多様性がその原動力となると考えています。

大村 智先生は昨年、『縁尋機妙』というすばらしい著書を出版されました。

「縁尋機妙 多逢聖因」とは、「良い縁は良い縁をたずねて発展し、良い人と交わっていると良い結果に恵まれる。」という意味であります。

良い縁を結ぶためには、本学の教職員、学生のみならず、開かれた大学としてOB・OGの皆さま、地域の方々、さらには教育機関、自治体、企業などといった、さまざまなステークホルダーを迎え入れる必要があります。

国際性を追求し、学生と社会人との区別なき共創を通してこそ、真の「縁尋機妙」につながるものであると考えています。

2024年は、十干十二支によれば、「甲辰」の年です。「甲」は十干では最初の文字で、物事の始まりや成長を意味し、「辰」は十二支では唯一の空想上の生き物の竜でもあり、「強運」や「隆盛」などを表すとされています。

是非、皆さまお一人おひとりが、本年を新たな始まりやチャレンジの機会を意味する年と捉え、前例にとらわれず、「創造」の心をもって目標の実現に向けて進まれることを期待しております。

結びに、くれぐれも健康にご留意頂き、新しい年が皆さまにとって実りある年となることを、心より祈念いたしまして、2024年、年頭のごあいさついたします。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和6年1月4日

山梨大学学長 中村 和彦